

落。

**イナバウエモン** 稻葉宇右衛門 前田利常に仕へて五百石を受け、御使番を勤めた。後に兄左近直富の讒を得るや、敵を堵撃に据ゑて共に命に抗したが、光高から死を賜はるに及び自刃した。↓イナバナホトミ 稻葉直富。

**イナバゴゼン** 因幡御前 加賀藩主第五代前田綱紀の女敬姫は、鳥取侯池田吉泰に嫁して、因幡御前と呼ばれた。又治谷子河岸御前ともいふこともある。

**イナバナホトミ** 稻葉直富 左近と稱し、諱は正福に作つたのもある。慶長の末稻葉正則の薦を以て前田利常に仕へ、五百石を賜はり、大坂役には旗奉行となつて従軍した。役後千三百石を増し、元和・寛永の間累に登庸せられて郡奉行・算用場奉行・公事場奉行・作事方總奉行に歴任し、祿四千石となつた。然るに直富が能登の代官を勤むるや、數年に互つて出納を明らかにしなかつた。この事は敢へて私曲あるでもなかつたが、後利常がその勘定を命ずるに及んで、直富は之に答辯し得なかつた。利常乃ち之を質さうとしたが、直富は承服せずして自邸に籠り、若し捕吏を遣はされたならば邀へて一快戦せんことを期した。因つて利常は之を棄て置いたのであるが、光高の封に就くに及び、物を賜うて屏居の辭を慰め、且つ罪狀の如何に拘らず、一命を擧げて老侯の命を重んじ、光高をして孝道を全からしむべきことを諭したので、直富は弟宇右衛門と共に自刃した。この事越登賀三州志にも三盡記にも寛永十八年七月とするも、それは光高在國の時ではない。若し初度

の内部の時ならば、十六年十一月から十七年三月の間にあるべく、隨つて諸士系圖に十七年二月廿八日切腹とするを探るべきである。

**イナバヘイザエモン** 稻葉平左衛門 水野源兵衛の子で、氏を稻葉に改めたもの。前田利長に仕へて二百石を領し、子孫世々藩に仕へた。

**イナバミチタカ** 稻葉通高 通稱甚左衛門、後道仁。寛永二年前田利常に仕へて百石を受け、子孫藩に世襲した。

**イナバヤクシドウ** 因幡薬師堂 初め天台宗如意坊之を犀川の橋爪丸山に安置したが、後に無住となつたから、西養寺十五代快空が如意坊の名を以て日光門主に請ひ、改めて翠雲寺と號した。後寺地崩壊して居住に堪へなかつたので、野田寺町極楽寺の向かひに移轉した。明治八年翠雲寺は珠洲郡三崎高勝寺の跡に移轉するに及び、かの薬師を最勝寺に遷座せしめた。因幡薬師と稱するのは、京都因幡堂平等寺のそれを勸請したものかと思はれる。

**イナブネ** 稻舟 鳳至郡川原田郷に屬する部落。能登名跡志に、『輪島より十町に稻舟村とてあり。往來より山手にある也。此村に藤太とて十村役あり。笠原氏なり。云々。今も五月八日には此の家に石動山の衆徒、僧正廻りの節一宿あり。』とある。

**イナフノブヨシ** 稻生宣義 ↓イネノブヨシ 稻宣義。

**イナベツミハナ** いなべつみ鼻 鳳至郡乙崎の部落から東方の小峠。

**イナヤツシヤ** 稻屋津社 鳳至郡稻屋の産土神である。舊名は天神社又は天満宮で、天

滿天神・天惠日命を祭神とする。それを稻屋津社としたのは、稻屋を撰集抄の稻屋津の郡だと附會したものゝ所業であらう。

**イナヤツノコホリ** 稻屋津の郡 ↓トウヤ 稻屋。

**イナリ** 稻荷 石川郡中奥郷の部落であつたが、明治八年十月に三日市村に合併せられた。

**イナリガハ** 稻荷川 金澤に在る一小川の舊名。龜尾記に、東本願寺の後なる堀から堀川に出る流水を稻荷川といふた。古へこの附近に稻荷祠があつた爲の稱であるが、今はその名を知るものがないと記する。

**イナリヤリヨウ** 稻荷社領 京都稻荷社領に加賀國味智郷内水田貳拾町にあつたことは、建武元年九月四日附雜訴決斷所の牒があり、又加賀國針道庄に社領のあつたことは應永十八年八月廿八日附足利義持の御教書に見られる。

**イナリバシ** 稻荷橋 金澤助九郎町から野町一丁目の小路へ出る間の溝川に架けた小さな板橋を呼ぶ。名稱の由緒は明らかでない。

**イナリバシ** 稻荷橋 金澤惣構堀の橋で、一方は殿町に、一方は味噌藏町に接し、その邊に古へ稻荷社が在つた故にこの橋名を生じたといふ。藩政中は橋爪に番人の家があり、板橋であつたが、明治廢藩後土橋に改めた。

**イナリバシ** 稻荷橋 金澤橋梁記に、『稻荷橋味噌藏町又並木町』とある。並木町なる淺野川稻荷社附近の橋も、前項惣構堀のものと同じく稻荷橋と呼んだのである。

**イナリマツリ** 稻荷祭 もと二月初午に當る日に稻荷祭を行つた。民間では當日午の刻に當り、玄關前手手桶の水を運び、柄杓を以て三たび之を屋上に撒布すれば、火難を免ると信ぜられた。稻荷祭は十一月晦日にも行はれたが、それは宇賀祭といはれた。

**イナリヤシキ** 稻荷屋敷 金澤城内新丸の西南下段なる堀端の細長なる地を稻荷屋敷といふた。越登賀三州志に、もとの所に稻荷社があつたが、築城の際一旦味噌藏町なる後に稻荷橋といふ附近に移し、元和八年更に眞長寺境内に轉せしめたので、此の頃眞長寺は古寺町の惣構端に在つたが、後に野町のうしろに移つたのである。又一説に稻荷橋に在つたのは淺野川天道寺の稻荷社であるといはれると。後説従ふべく、新丸の稻荷社は直に眞長寺に移されたのであらう。

**イヌゴエ** 犬越 鳳至郡繩又から別所に至る間の峠。高さ二五七米。

**イヌゴヤ** 犬小屋 舊藩中は鷹方に要する犬を飼置く小屋が石川郡笠原にあつて、犬率の者等によつて養育せられ、明治に及んだ。この小屋はもと天徳院の傍にも在つて、延寶の金澤圖に見えるが、後に廢止せられたらしい。慶長十七年十月の定書に、『鷹師並えさし・いぬ引以下在々におみて、貲其外非分申懸儀不可有之事。』とあるから、その頃犬小屋も初めて置かれたものであらう。

**イヌノサハ** 犬澤 江沼郡下福田の内の小字。茨懸紀聞に、下福田村領に大なる澤があつて、狼が常に居たから犬の澤と名づけたとある。

**イヌマル** 犬丸 能美郡板津郷に屬する部落。  
**イヌマルミヨウ** 犬丸名 山城國賀茂社藏